

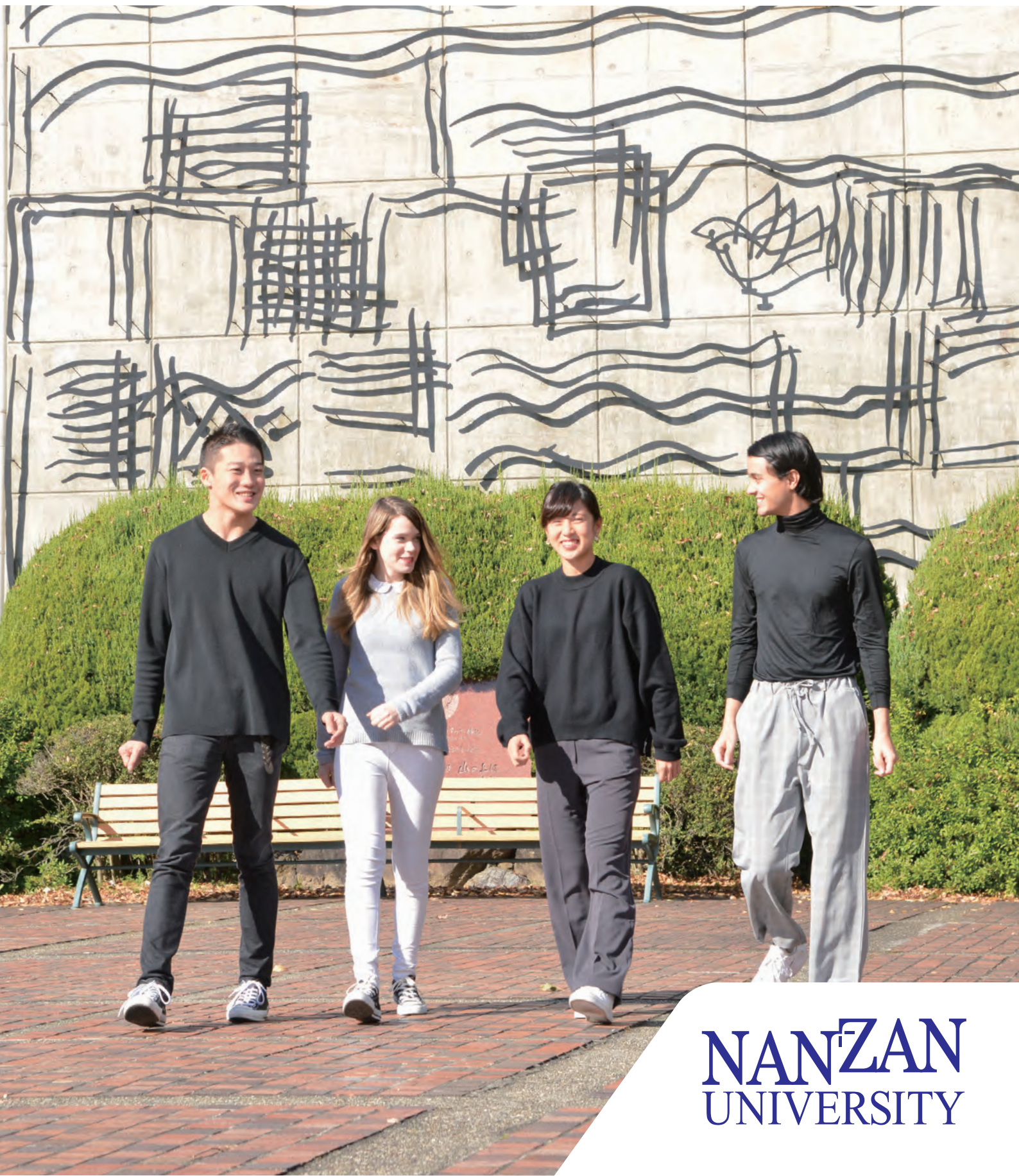
南山大学広報誌

NANZAN

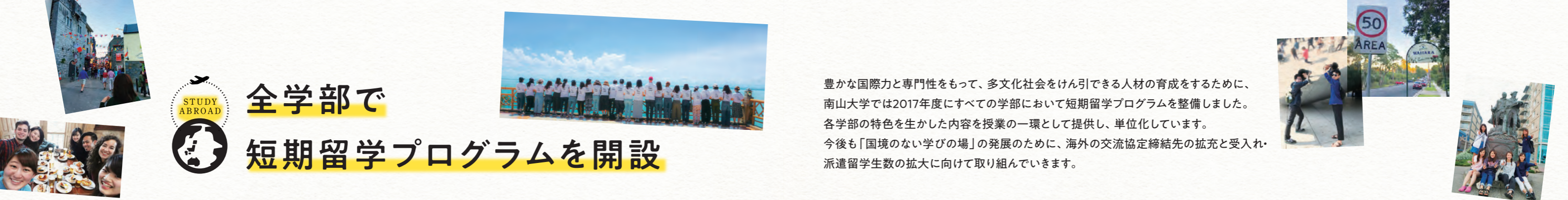
BULLETIN

vol.203
2017.12.20

特集
全学部で短期留学
プログラムを開設



NANZAN
UNIVERSITY



全学部で 短期留学プログラムを開設

豊かな国際力と専門性をもって、多文化社会をけん引できる人材の育成をするために、南山大学では2017年度にすべての学部において短期留学プログラムを整備しました。各学部の特色を生かした内容を授業の一環として提供し、単位化しています。今後も「国境のない学びの場」の発展のために、海外の交流協定締結先の拡充と受け入れ派遣留学生数の拡大に向けて取り組んでいきます。



人文学部

2017年度から人文学部共通科目の一つとして「人文学異文化研修短期留学プログラム」(2~4年生対象科目)をスタートしました。第2クォーターを活用し、約4週間アイルランドのダブリンシティ大学へ短期留学するプログラムで、他の留学生と共に学ぶ語学研修やアクティビティの他、人文学部生への特別クラスとしてアイルランドやケルトの文化・歴史・音楽・言語の勉強や教会・修道院などの見学、先史時代の遺跡群見学なども行っています。

参加学生の声
人文学部日本文学学科3年
廣瀬 悠名
渡航期間：2017年7月2日～7月31日



「日本人の少ない土地に行って英語漬けの毎日でした。この一心でアイルランドへの留学を決めました。アイルランドという国にこだわりはなかった私ですが、日に日にアイルランドへの愛は深まるばかりでした。



アイルランドは様々な人種の方が共存しており治安も良いです。人々にとっての住みよい街というのがどういう街なのか、これを自分の目で見る事ができたのは大きな学びとなりました。現地の大学でも他国の留学生と濃い人間関係を築くことができ、彼らの英語力に刺激とやる気をもらって毎日です。



アイルランドで過ごした日々は私の宝物です。国際色豊かな素晴らしい人々とアイルランドという国に出会えたことを、プログラム一期生として誇りに思います。

外国語学部

これまで学科毎に実施してきた海外実習が、2017年度から「海外フィールドワーク」に生まれ変わりました。「海外フィールドワーク」では、英米学科はアメリカ合衆国のハワイ大学とイギリスのチチェスター大学、スペイン・ラテンアメリカ学科はスペインのサラマンカ大学とメキシコのグアナフアト大学、コロンビアのハベリアーナ大学、フランス学科はフランスのオルレアン大学とリヨン・カトリック大学、ドイツ学科はドイツのデュッセルドルフ・国際コミュニケーション研究所、アジア学科は台湾の輔仁大学とインドネシアのサナタ・ダルマ大学で研修を行う予定です。

参加学生の声
外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科3年
野口 友香子
渡航期間：2017年2月21日～3月26日



「スペイン語実習」(2017年度から「海外フィールドワーク」に変更)に参加しました。実習ではスペイン語でのラジオ出演やスペイン人の前でプレゼンテーションなど、普段日本ではできない体験を沢山することができました。この実習に参加して特に良かったと思うことは、沢山の人と出会えたことです。大学では他の国から来た留学生と休み時間に雑談をしたり、一緒に出掛けたりしました。また、ホームステイ先ではホストファミリーとの交流はもちろん、同時期に留学してきていたイタリア人とお互いに母国の料理を作り、良い関係を築くことができました。多くの刺激を受け、様々な事を考えるきっかけとなる非常に充実した1カ月でした。



法学部

2016年度から「海外法文化研修」(2~4年生対象科目)をスタートしました。オーストラリア・シドニーにあるマッコリー大学で、約4週間ホームステイをしながら語学研修を行い、合わせて現地の裁判所や議会議事堂、検視法廷を見学するなど、現地の法律についてのレクチャーを受けながら国際交流を図ります。日本と法制度が異なる海外の事情を体感しながら、英語を学ぶ機会となります。2018年度はオーストラリアの他、カナダ・カルガリー大学でも実施予定です。

参加学生の声
法学部法律学科2年
原口 知夏
渡航期間：2017年6月10日～7月9日



こんなに充実した一カ月は初めてでした。毎朝ホストファミリーの女の子たちに名前を呼ばれ起床し、ホストマザーと朝食、行ってきますのハグをして登校。帰宅すればホストマザーに授業で分からなかったところを教わりながら宿題をし、終わるとドラマやラグビー観戦。ホストファミリーと過ごす週末のために日々勉強に励みました。英語しか使えない多国籍のクラスメイトとの授業ではディスカッションが頻繁に行われ、最後にはグループリーダーを務めるほど積極的にになりました。研修での生活は私の経験値を上げ、性格まで変化をもたらしました。ネガティブだったあの頃が懐かしく感じるほどに今は悩みがありません。壁にぶつかる度にまだ成長できる自分にわくわくしています。



総合政策学部

「学外体験プログラムB」(1~4年生対象科目)では、ベトナムマングローブ植林プログラム(約10日間)と、ニュージーランド・クライストチャーチでの復興事業におけるインターナショナル・サービス・ラーニング(約2週間)を実施しています。南山短期アジア留学プログラム(NAP)は、現在2年生を対象として実施していますが、2018年度からは学科科目に変更し、「政策研修プログラム」(1~4年生対象科目)として実施予定です。台湾、中国、韓国、フィリピン、タイ、ベトナム、マレーシアの中から希望の渡航先を選択し、約3週間、語学の他、現地の生活や文化に触れる様々なプログラムに参加したりフィールドワークを行ったりする予定です。

参加学生の声
総合政策学部総合政策学科2年
町田 悠輔
渡航期間：2017年8月5日～9月2日



NAP(タイ)に参加しました。1カ月間のタイでの生活では、日常生活の中や様々な文化体験、ホームステイ、フィールドワークを通じてタイの文化に触れ、日本との違いを肌で感じる毎日でした。特に、現地の大学で日本語を学ぶ学生であるチューターたちとの出会いは大きな経験でした。チューターと一緒に毎日ご飯を食べたり、フィールドワークで助けってもらったりして仲良くなり、友達になるのに言語や文化の壁はないということを実感しました。タイで共に過ごした仲間や時間は、かけがえのない宝物になりました。



経済学部

2017年度から「経済英語海外研修」(2~4年生対象科目)として科目化しました。約4週間の研修中、オーストラリア・ブリスベンのグリフィス大学で英語を集中的に学んだり現地学生と意見交換を行ったりする他、アクティビティでは現地の商工会議所見学や自然環境保護策を考えるツアーに参加し、短期的・長期的な視点で経済のあり方を考えます。宿泊はホームステイで、異文化への理解を深め、世界経済ひいては日本の経済社会を客観的に見直す機会になります。

参加学生の声
経済学部経済学科3年
九里 紗也香
2017年2月15日～3月12日、2017年8月9日～9月3日
※本人の希望により2回参加。



私は春季と夏季の2回、経済学部短期留学プログラムに参加しました。研修で出会ったホストファミリーや海外の留学生とは、毎日英語で会話をし、休日には一緒に出かけ、今でも連絡を取り続けています。英語だけでなく、中国語や韓国語を学ぶ意欲も出てきました。短期留学を通して、伝えようと思えば相手は理解しようとしてくれるという発見があり、また現地ならではの言い回しや便利なフレーズを学ぶこともできました。「ホストファミリーや友達とずっと話したい!」という気持ちが英語の学習意欲にも繋がりました。さらに、休みの日にはブリスベンを満喫できました。行くには不安もたくさんあると思いますが、まずは行動を起こすことで人生に大きな影響を与えるものになると思います。



経営学部

2016年度から「ビジネス英語海外研修」(2~4年生対象科目)を開講し、約4週間アメリカ合衆国ポートランド州立大学で午前中は英語授業を、午後にはビジネス経営について学びます。宿題やプレゼンテーション課題もあり、滞在中、街中の店舗の特徴・商品価格設定・競合相手などを調査したり、企業訪問を行ったりするなどし、最終報告会では新しいビジネスを立ち上げるという課題について発表します。滞在はホームステイで、観光や現地学生との交流なども用意されています。

参加学生の声
経営学部経営学科2年
阿部 眞子
2017年8月23日～9月17日



私はこの研修で沢山の「新しい出会い」を経験しました。まず人との出会いです。私の拙い英語を必死に理解してくれたホストファミリーや現地のアシスタントスタッフは、留学中私の心の支えでした。次に現地で出会った日本中からの大学生や南山のメンバーは、帰国後もお互いを高め合える大切な仲間となりました。最後に異文化との出会いです。日本での常識が通用しない海外では、自ら違う文化や人種を理解しなければならず、視野を広げることに繋がりました。そしてこのプログラムでの企業訪問やシリアル旅行を始めた沢山のアクティビティで、様々な新しい経験と出会いました。これらポートランドでの新しい出会いは、私が日本で様々なことに挑戦する活力となっています。



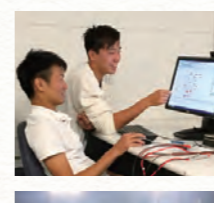
理工学部

2017年度から「理工学海外研修」(1~3年生対象科目)として科目化しました。アメリカ合衆国インディアナ州のパデュー大学ノースウェスト校に約2週間滞在し、英語力(特に理系で必要な英語力)の向上と、海外で勉強することや海外で働くことへの理解を深めることを目的としています。現地では通常の英語クラスの他、電気回路の実験や研究施設の見学、現地日系企業見学、パティと呼ばれる現地学生との交流などが行われます。

参加学生の声
理工学部機械電子制御工学科1年
浅野 翔矢
渡航期間：2017年9月2日～9月16日



「積極性を身につけ、自分の英語力を生かす。」これが短期留学の目標でした。現地での授業は日本以外からの学生と一緒にのもあり、彼らの我先にと発言する姿に初めは圧倒されてしまいました。しかし自分も積極的に発言した途端、自分の殻を破ることができ、とても価値のある成長になりました。また、海外での就職を考えている私にとって、パナソニックへの企業見学はとても衝撃を受けました。「海外で仕事をするのは努力の賜物であり、どれだけ難しいか。」これらに気付けたことで、世界への闘志が湧き出しました。全てが充実し、成長できた意味のある2週間でした。自分に不利な環境は新たな自分に気付かせてくれるものであり、自らの力で自らの成長を切り拓く素晴らしい経験になりました。



国際教養学部 ※2017年度開設

2018年度から「ASUサマープログラム」として2年次第2クォーターに実施し、原則全員に参加を義務付けています。アメリカ合衆国アリゾナ州立大学(ASU)で約6週間わたって行われ、参加者は国際社会の諸問題の原因、歴史、解決法について学びます。ASUは全米で最初にサステイナビリティ・スタディーズ学部を創設した大学で、大学全体でも再生可能エネルギーを積極的に使用するなどしており、持続可能な社会作りを「現場」で学ぶことができます。このプログラムをとおり、グローバル、ローカルのレベルで生起する問題を解決に導くための思考力、議論力、実行力、発信力などを磨いてきます。そして、帰国後にどのような専門分野をさらに深めて学びたいか、将来どのようなキャリアに進みたいのかを考える機会にもなります。また、「GLSフィールドワーク」(3~4年次対象科目)を2019年度から実施予定です。これは2年次から始まる第二言語を用いてフィールドワークを行うプログラムです。文化体験、ボランティア、インターンシップ、聞き取り調査、国際機関訪問などが用意される見込みです。



【問合せ先】 各学部事務室
こちらで紹介しています学部別の短期留学プログラム以外にも、全学部生を対象とした短期留学プログラムを夏期休暇・春期休暇に実施しています。詳しくは国際センター事務室にお問い合わせください。

私の研究



蜂巣 吉成 (はちす よしなり)
理工学部 ソフトウェア工学科 教授

専攻分野は、ソフトウェア工学。
研究テーマは、Webを利用したプログラミング教育支援。
主な担当科目は、プログラミング基礎、プログラミング応用、オブジェクト指向プログラミング。

楽しく実践的な プログラミング教育支援

2020年度からの小学校プログラミング教育必修化が検討され、プログラミングへの社会の関心が高まっています。大学でも世の中で実際に使われているプログラミング言語を用いた講義や演習が行われています。私は学習者が興味を持って実践的なプログラミングを学べるように、教員にとってはプログラミング演習がやりやすくなるような研究を行っています。

LEDや温度センサなどの実際のモノを制御しながら、初学者でもプログラミングを楽しく学べる方法について研究しています。世間で実際に使われるプログラムは単に動けば良いわけではなく、バグがなく、わかりやすい「きれいな」プログラムが求め

られます。学習者のプログラムが「きれいではない」場合に、それを自動で判定して指摘するようなシステムの開発などにも取り組んでいます。

大学のプログラミング演習では1クラスに数十人の学生がいます。限られた時間で学習効果を上げるためには、教員が学生の進捗状況を把握して適切なアドバイスを与えることが重要です。従来は教員が学生の机の間を回り、一人一人のプログラムを確認しながら進捗状況を把握することが普通でしたが、時間がかかります。私は学生のプログラムを自動的に取得・解析して、全体の進捗状況を教員に提示する方法について研究をしています。さらに推し進めて、学生の進捗が遅い場合に自動でヒントを与えるシステムなどについても研究を進めています。

プログラミングは楽しいものです。それが多くの人に伝わればと思います。

階乗(n!)を計算するCプログラム(誤りあり)

```
int fact(int n)
{
    if (n == 0) return 0;
    else return (n-1) * fact(n);
}
```

Web上でプログラムの誤りを修正する問題。
続きは下記URLをご覧ください。
<http://ecq.tebasaki.jp>



センサやLEDなどを配線した基板。プログラムによりこれらを制御します。

私のクラス



土屋 耕治 (つちや こうじ)
人文学部 心理人間学科 講師

専攻分野は、社会心理学、体験学習、組織開発。
研究テーマは、集団的知能の発現、人間関係学理論の構築。
主な担当科目は、社会心理学、人間関係概論、人間関係トレーニング。

社会の中の単純で 複雑な人間

今回は、私の担当している授業の中でも、「社会心理学」の授業を取り上げてご紹介したいと思います。

社会心理学の授業では、これまで研究者が行ってきた様々な実験を紹介しながら、周りから影響を受けると同時に影響を与えるという人間像を描き出していきます。

社会心理学の知見の中には、私たちの直感に反するものも多く存在します。ほとんどの人が、状況の力を受けて無自覚に行動を選択する様は、私たちの「自由意志を持つ人間」という概念を揺さぶります。また、指示されると、それが良くないことだと分かっているにもかかわらず従ってしまうという姿は

「自分は良心的な人間でいられる」という信念さえも脅かすものであったりします。

人の本性は善か悪か。人はその両方を持っており、状況や関係の中でそれらが引き出される、というのが社会心理学の答えの一つです。

私たちは、なぜこれを良いと思うのか。そうした価値観さえも相対化していく中で、人間の単純でありつつも、複雑な様に触れていくことができます。日々大きく変動していく社会や人間関係の全てを単純に説明することは難しいものの、人間の持つ特徴を知り、研究をすることを通して、「人間の尊厳とは、それを大切にしようとするのではなくは維持されえないものである」という思いも出てきます。

学生の皆さんとは、一緒に新しい研究に取り組む中で、こうした単純で複雑な人間について考えていけたらと思っています。



「心理人間学演習」(社会心理学ゼミ)の授業風景。学生は研究テーマに関する調査を立案し、分析していきます。



障がい者施設Father Ray Foundationへの訪問の様子

ASEACCU (東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

期間: 2017年8月21日~8月27日
場所: Assumption University (タイ・バンコク)
参加者: 瀧名泉甫さん(経営学部経営学科4年)
鈴木清香ジーンさん(総合政策学部総合政策学科2年)

ASEACCU実施内容

ASEACCU※には、日本、オーストラリア、インドネシア、韓国、フィリピン、台湾、タイ、カンボジアの東南アジア・東アジアの国や地域から、約80校のカトリック大学が加盟しています。8月21日から27日にタイのAssumption Universityで実施された2017年度ASEACCU学生会議には、8つの国や地域から70名以上の学生が集まりました。今年は“Catholic Educational Institutions and Inclusive

Education: Transforming Spaces, Promoting Practices, Changing Minds”をテーマに学生同士でのディスカッションやプレゼンテーションの発表を行い、カトリック高等教育の課題や地球規模の問題などアジアの若い学生たちが直面する問題への理解を深めました。

※ASEACCU: The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities



(前列右側)鈴木さんと(後列左から2番目)瀧名さん

✉ 瀧名泉甫さん感想

今回ASEACCU学生会議に南山大学の代表として参加させていただいたことは、私にとって「人間の尊厳とは何か」を考え直す貴重な機会となりました。一週間の学生会議では、タイのバンコク近郊にある障がい者施設に行き、包括的教育がどのように行われているのを見学し、その施設と比較して各国の状態がどうなっているのかを8カ国から集まった学生と意見交換することで、自分の考えを再構築する機会を得ることができました。

このような経験をおして、私が学んだ最も大切なことは、障がい者と呼ばれている人々は健常者と変わらず、彼らも個々の才能を持っているということです。障がい者というレッテルを貼られてしまうことにより、個々の才能が生かしくなかったり、メディアなどに注目されすぎたりして、障がい者と呼ばれている人が特別な存在のように扱われることが多いように思います。しかし、人として個々の才能を持っていることは当然であり、彼らはそれを生かし、普通に生活を送る権利があります。重きを置かれるべきは彼らの尊厳なのです。このことを再認識できたことが、今回の一番の学びです。このような学びのチャンスをいただき、南山大学を始め、関わった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

✉ 鈴木清香ジーンさん感想

タイで行われたASEACCU学生会議は、私の東南アジアに対する考え方を換え、また日本という国を改めて見つめ直すきっかけになりました。東南アジア各国の学生達が集まる会議であるため、様々な価値観の視点から今回の会議のテーマについて考察することができました。また、東南アジア各国から来た学生達と話し合いや討論をしていくうちに、非常に親しい関係になることもでき、彼女たちとは今でもSNSをとおして連絡を取り合っています。

ASEACCU学生会議は東南アジアでの社会問題を学び、自分は日本代表としてプレゼンテーションやディスカッションをとおして自分のアイデアを発信できます。それと同時に様々な人種の学生達と関わることで、日本人として自分の立場を改めて考え、また様々な価値観を感じることができました。そんなASEACCU学生会議は私に大きな影響を与えた素晴らしい経験になりました。



外国語学部 加藤隆浩教授と人文学部 高橋亜希子教授が、平成29年度「科研費」審査委員として受賞

外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科の加藤隆浩教授と、人文学部心理人間学科の高橋亜希子教授が、平成29年度「科研費」審査委員として、独立行政法人日本学術振興会から表彰されました。

日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）では、公正・公平な審査をするために、第1段審査（書面審査）と第2段審査（合議審査）の2段階のピア・レビューにより行われています。その審査の検証で有意義な審査意見を付した審査委員が表彰され、今年度は約5,300名の第1段審査委員の中から255名が選ばれ、本学からは加藤教授と高橋

教授が表彰を受けました。



（左から）加藤教授、鳥巢学長、高橋教授

名誉教授2名が秋の叙勲受章

平成29年秋の叙勲において、岩野一郎名誉教授が瑞宝中綬章を、藤井達敬名誉教授が瑞宝小綬章をそれぞれ受章しました。

岩野名誉教授は、1968年南山大学外国語学部講師となった後、72年同助教授、82年に同教授に就任。アメリカ研究センター長、外国語学部長などを歴任しました。2007年に本学名誉教授の称号を授与されました。

藤井名誉教授は、1966年南山大学経済学部助手となった後、67年同講師、68年同経営学部講師、78年同助教授、85年同教授に就任。経営学部長、大学院経営学研究科長などを歴任しました。2004年に本学名誉教授の称号を授与されました。

人文学部心理人間学科「公認心理師」受験資格への対応について

国家資格である「公認心理師」の受験資格を得るにはいくつかの経路があり、4年制大学と大学院で指定された科目を履修し卒業・修了する、4年制大学で指定された科目を履修後卒業し、かつ省令に定められた実務経験を積む、などがあります。南山大学人文学部心理人間学科では、2018年度入学生から「大学で指定された科目」の履修が可能になるよう準備しています。

なお、「公認心理師」は専門性が高く、求められる内容も多い資格のため、本学心理人間学科では、一般企業への就職や各種他資格取得を目指しながらの「公認心理師」受験資格を満たす履修計画はお勧めしていません。3年次進学頃までには受験資格取得を目指すか否か決めることが必要でしょう。心理人間学科は頑張る人を応援します。

※南山大学では大学院での対応は予定していません。
 ※本学科を卒業すれば自動的に受験資格を取得できるわけではありません。
 ※「大学で指定された科目」には、履修人数制限がある科目も含まれます。
 ※公認心理師試験の受験資格の詳細については、厚生労働省等のWebページでご確認ください。

南山のDNA

チャレンジすることの大切さ



橋本 徹也
総合政策学部総合政策学科
2010年度卒業

私は就職活動時に「社会を支え、より多くの人のためになる仕事がしたい」と思い、JR東日本に就職しました。採用が東京になり、最初に配属されたのが渋谷駅でした。生まれも育ちも愛知県でずっと実家暮らしであった私には、東京で働くことは大きなチャレンジでした。入社当初は、みどりの窓口で切符の発売や改札業務を担当し、東京の電車の本数や人の多さに圧倒されつつも、現在ではすべてが自分を成長させる良い経験だと前向きに捉えて日々業務に臨んでいます。

大学時代には部活やゼミなど様々なことに取り組みましたが、私がチャレンジすることを前向きに捉えられるようになったきっかけとして、マレーシアへの短期留学での経験があります。私は大学2年の時に総合政策学部のNAP(南山短期アジア留学プログラム)に参加しました。内容はマレーシアで一カ月間、現地の大学の寮に滞在しながら語学や文化などを学ぶというものでした。それまで一度も海外に行ったことのない私には非常にハードルの高いものでしたが、せっかく総合政策学部に入ったのだからこの目の前のチャンスを生かそうと思い、参加を決めました。

Profile

卒業後、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)に入社。入社後は渋谷駅で駅員としてみどりの窓口や改札業務を担当。現在は車掌として東海道線、横須賀線に勤務し、電車のドアの開閉や車内放送を担当している。

留学中は日本とは比べ物にならないほど香辛料が多い料理や、箸やフォークなどを使わずに直接手で食事をする場面があるなどの文化の違いにカルチャーショックを受けつつも、温かく出迎えてくれた現地の人々との交流をとおして、日本にいただけでは得られない多くのことを学び、自分を成長させることができました。この留学へのチャレンジから得た経験が、社会人になった今でも自分の財産になっています。

今後の目標は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会で日本を訪れる世界中からのお客さまに、車掌として大会期間中の安全安心な輸送サービスを提供し、温かくおもてなしすることで大会の成功に貢献することです。これからも南山大学で培ったチャレンジ精神を忘れずに仕事に取り組んでいきます。



NAPで訪れたマレーシアで

活躍する南山大生

大学院ソフトウェア工学専攻の学生2名がソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2017で学生奨励発表賞を受賞

2017年8月31日から9月1日に早稲田大学で開催されたソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2017において、大学院理工学研究科ソフトウェア工学専攻博士前期課程2年の松原百映さんと1年の稲垣遥太さんが、それぞれ学生奨励発表賞を受賞しました。

松原さんは「人と高度自動化システムの協調モデルに基づく安全性要求分析方法の提案と先進運転支援システム(ADAS)への適用評価」と題して発表しました。この研究は、最近注目されている自動運転や自動ブレーキシステムなどの自動車の高度な自動化システムと人との協調が安全性に及ぼす影響を分析する新しい方法を提案し、実際の自動車の先進運転支援システム(ADAS)を事例として適用し、提案方法が有効であることを示しました。今後、自動車の自動運転などの技術が急速に発展すると予想されていることから、この研究成果は社会への貢献が期待できます。

稲垣さんは「グラフモデルを用いたOSSコミュニティ進化構造分析方法の提案と評価」と題して発表しました。この研究は、オープンソースソフトウェアと呼ばれる、世界中の技術者が協力して開発し、公開しているソフトウェア開発の仕組みを、グラフを用いて理論的かつ定量的に分析する新しい方法を提案しています。提案方法を、主要な人工知能分野のソフトウェア開発に適用し、その4年間にわたる発展の仕組みを明らかにしました。なお、この研究は、2017年3月13日に早稲田大学で開催された国際ワークショップ IWESEP2017 (The 8th IEEE International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice)で共著者の加藤聖也さん(同専攻博士前期課程1年)がポスター発表を行い、Best Poster Awardを受賞しています。



松原さん (右から)稲垣さん、共著者の加藤さん

2017.9.15
**南山大学附属小学校1年生
 オリエンテーリング**

9月15日に、南山大学構内で、南山大学附属小学校1年生のオリエンテーリングが行われました。これは1年生宿泊学習の活動の一つで、大学に親しみをもち身近に感じるようになること、体験学習を通じ自ら問題を発見し解決していくといった自律的・能動的な学びの姿勢を身につけることを目的として毎年実施されています。

小学生は大学に到着後グリーンエリアで昼食をとったのち、グループごとに分かれてオリエンテーリングを開始しました。グリーンエリアでイエス・キリストの像やバツヘ神父の碑を探してスケッチをしたり、大教室を見学し小学校との違いを見つけて記録を行ったりしました。また、外国人留学生に英語を使っている様子を見て、大学生との交流も楽しんでいる様子でした。

を多文化交流ラウンジに移し、Nanzan International Ambassadorの学生が企画した「Cruise The World」の各国クイズなどを通して、多くの留学生と在学生在が交流を深めました。



2017.9.23, 2017.10.7, 2017.10.21, 2017.11.4

**名古屋大学博物館・
 南山大学人類学博物館
 連携博物館講座(全4回)
 「大学博物館が語る、地球と人類
 の歴史」『人類史と動植物』**

名古屋大学博物館と南山大学人類学博物館は2014年に協定を締結し、両博物館教員、職員、学術の交流および博物館標本の相互利用などの連携協力を行っています。今年度は「大学博物館が語る、地球と人類の歴史」『人類史と動植物』というタイトルで、全4回の連携博物館講座を実施しました。

地球の誕生から現代に至る大きな歴史“ビッグヒストリー”を、両大学の研究者が、博物館資料を駆使し自然と人類の両側面から語りました。全4回とも盛況で、熱心にメモを取りながら聞かれている方もいらっしゃいました。



2017.9.30
父母の集い

9月30日に、南山大学と南山大学後援会の共催で、第45回「南山大学父母の集い」を開催しました。全体集いの第1部では、鳥巢学長、米川後援会理事長の挨拶に続き、学生生活、進路支援、国際教育



2017.9.15
**「大学の世界展開力強化事業」
 日本語集中コース修了式**

上智大学・上智大学短期大学と共同申請し採択された文部科学省平成27年度「大学の世界展開力強化事業～中南米等との大学間交流形成支援～」の上智一南山ラテンアメリカプログラム日本語集中コース修了式を、9月15日に行いました。

本プログラムによる学生の受け入れは4回目、メキシコ、チリ、コロンビア、ブラジルから7名の学生が参加し、約4週間、日本語集中コースやインターンシップを経験しました。南山大学でのコース修了式後、留学生は上智大学へ移動し、専攻分野に対応した学部での留学を開始しました。



2017.9.20
多文化交流ラウンジ オープンイベント

9月20日にR棟2階に多文化交流ラウンジ(愛称:Stella)がオープンし、オープンイベントを実施しました。オープンイベントでは、R棟2階ロビーで、チャリダーKOALASによる演奏、アカペラサークル「みなみやま」による演奏、鳥巢学長による挨拶が行われました。鳥巢学長、星野副学長(国際担当)らによるお祝いの菓子まきも行われ、お菓子がまかれると、参加した学生は大いに盛り上がりしていました。その後、場所

について説明を行いました。第2部では「2018就活最前線!～人事担当者と内々定者が語る～」をテーマに、企業人事担当者と就職活動を終えた在学生3名が就職活動についてパネルディスカッションを行いました。他にも学部・学科懇談会や指導教員との個別面談などを実施しました。

2017.9.30-2017.11.5

**2017年度明治大学博物館・
 南山大学人類学博物館交流事業
 「三河武士内藤家、大名への道」**

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2010年度から交流・連携に関する協定を結び、収蔵品の交換展示や共同シンポジウムなどを開催してきました。今年度は9月30日から11月5日にかけて、両館の資料を交換して展示する交換展示と、ギャラリートークを開催しました。

明治大学博物館による企画展「三河武士内藤家、大名への道」を南山大学人類学博物館で開催し、七万石の譜代大名内藤家に伝わった近世・近代の記録(内藤家文書)を紹介しました。内藤家が徳川家の一家臣であった時代から、徳川家の政権獲得を決定づけた関ヶ原の合戦をへて、その地位を確固たるものにし、陸奥国磐城平領を治める大名となっていく様子を描きました。

また、南山大学人類学博物館による企画展『二十世紀の石器時代人』を求めて一南山大学東ニューギニア学術調査団の軌跡一」を明治大学博物館で開催し、1964年に南山大学が東ニューギニア高山地帯(現・バブアニューギニア独立国)で民族学・考古学・言語学・精神医学からなる総合人類学調査を行った際に収集された貴重なコレクションを展示しました。



2017.9.30-2017.10.8

**図書館企画展
 「遠藤周作という人―母なる神を
 追い求めて―」**

9月30日から10月8日にかけて、図書館で企画展「遠藤周作という人―母なる神を追い求めて―」を開催し、遠藤周作の作品や人となりを紹介するとともに、本学が所蔵する資料を展示しました。

また、10月4日には図書館カトリック文庫協議会主催の講座『「母なるもの」のまなざし―遠藤周作の作品を味わうための講座―』を開催しました。講師の人文学部教授・南山宗教文化研究所長の金



承哲氏は、「痕跡」と「痛み」をキーワードとして、遠藤文学を様々な角度から語られ、参加された方々は、熱心に話を聴かれていました。

2017.10.14

野外宗教劇「受難」

10月14日に、パッヘ・スクエアで第51回野外宗教劇「受難」の公演を行いました。「受難」は南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴダの丘における十字架の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる野外劇です。基本的に同じ筋をたどるストーリーにも毎年新たな解釈が加えられており、そこも見どころのひとつとなっています。

今年のテーマは「つなぐ」。劇中に役者が発する言葉から、『自分にとって、つなぐとは何か。』を観客の皆さんに感じていただきたい。』という願いが込められました。迫真の演技が次々に繰り広げられ、今年も盛況のうちに幕を閉じました。



2017.10.25

CJSフェスタ2017秋

10月25日に、CJSフェスタ2017秋を開催し、外国人留学生別科(Center for Japanese Studies)で学ぶ世界22カ国からの留学生と日本人学生が交流を図りました。

会場は留学生の日本語レベル別にコース分けされ、4名程度のグループに分かれて留学生が出身国の文化や出身大学の様子を紹介したり、「友人関係」「男女の役割」といったトピックスについて話合ったりしました。上級レベルの教室では、「私の国の論点」をテーマに留学生がプレゼンテーションを行い、その後グループに分かれて意見交換を行いました。参加した学生はわきあいあいとした雰囲気の中、異文化交流を楽しんでいました。



2017.10.28

**受験生のための入試相談会・
 保護者のためのキャンパス見学会**

10月28日に、一般入試・全学統一入試・センター

利用入試の受験予定者の方を対象とした「受験生のための入試相談会」と、高校生の保護者の方を対象とした「保護者のためのキャンパス見学会」を同時開催し、767名の方にご来場いただきました。

受験生向けには入試説明会、学部説明会、入試対策講座を、保護者向けには大学概要説明会、就職事情とサポート体制の紹介、入試説明会等を実施した他、Web出願についての説明会、個別相談コーナー、キャンパスツアーも行いました。



2017.10.31, 2017.11.5

法学部開設40周年記念事業

1977年4月開設の法学部が今年度40年を迎えたことを記念し、記念講演会ならびに記念パーティーを開催しました。

10月31日にB31教室で開催した記念講演会では、「法学部卒業後の歩み～裁判官としてのキャリア～」と題して近藤猛司名古屋高等裁判所判事(南山大学法学部出身)にご講演いただきました。

11月5日にはC棟1SYOKUで記念パーティーを開催し、法学部卒業生、教育職員、名誉教授等の他、在学生も参加し、和やかな雰囲気の中、40周年を祝いました。



2017.11.1-2017.11.4

**韓南大学校法政大学法学部(韓国)
 との学術交流会**

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法政大学法学部は、毎年11月初旬に3～4日間の学術交流会を行っています。1年交代で日本または韓国で研究発表や議論をしており、15年目となる今年は、韓南大学校で11月1日から11月4日に実施しました。

この交流会は、法学部・法科大学院の教員のみではなく希望学生も参加しており、今年「韓日憲法の現代的動向」をテーマに議論を交わしました。学術交流の他、懇親会も実施し、大学間の交流が積極的に行われました。



2017.11.3-2017.11.5

大学祭

11月3日から11月5日の3日間、南山大学大学祭「南山祭」を開催しました。今年のテーマは「パレード」。メインストリートには約50の模擬店が並び、教室棟や体育館等では、カフェ、音楽演奏、作品の展示・販売、寄席、映画・演劇の上演等を行いました。グリーンエリアに設置されたメインステージでは、開祭式から後夜祭まで、バンド演奏や演技披露等、各団体が練習の成果を発表し、多くの人で賑わいました。

南山大学同窓会主催の「ホームカミングデー」も11月5日に開催されました。抽選会、茶席、バザー、在学生と若手卒業生を対象とした講演会と交流会「南山卒コン」や子供向けのイベントも催され、多くの卒業生が家族連れで母校を訪れました。

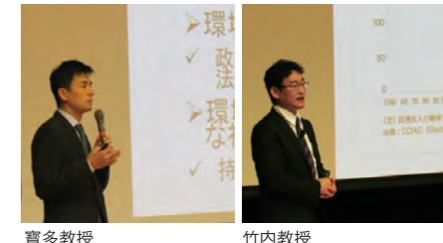


2017.11.12

**2017年度南山大学・豊田工業大学
 連携講演会
 「地球環境について考える
 ～グローバル経済と先端技術の
 視点から～」**

11月12日に、2017年度南山大学・豊田工業大学連携講演会「地球環境について考える～グローバル経済と先端技術の視点から～」を南山大学フラットンホールで行い、125名の方にご来場いただきました。南山大学と豊田工業大学は大学間の教育・研究における相互補完的な交流をめざし連携しており、講演会は、両大学の連携姿勢と成果を広く社会に周知することで社会的な認知度をあげると共に、地域一般の教養啓蒙をはかることを目的に行っており、今年で12回目の開催となりました。

南山大学からは経済学部 實多康弘教授が「グローバル経済と環境・資源問題」と題し、国際貿易を考慮に入れて環境・資源問題を考える意義について解説しました。豊田工業大学からは工学部竹内恒博教授が「省エネルギー社会のための新機能材料の開拓」と題し、熱電変換材料についての説明や革新的開発手法について解説されました。



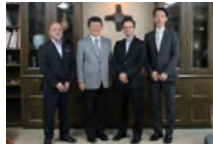
實多教授

竹内教授



2017.9.26

在名古屋米國領事館首席領事ゲーリー・シェイファー氏が来学され、首席領事着任のご挨拶で鳥巢学長、星野副学長(国際担当)を表敬訪問されました。



2017.10.30

南山大学外国人留学生別科へ留学されていたハンガリー出身のマルクシュ・ガーボル氏が、鳥巢学長を表敬訪問されました。

マルクシュ氏のご著書『A NANZANTÓL A NAMSANIG』『赤い太陽と緑の星:南山大学1982』を寄贈していただきました。



2017.11.1

フィリピン共和国サン・カルロス大学のガウト・アレクサンダー先生が、学長を表敬訪問されました。

南山大学とサン・カルロス大学は2011年度から教員交換協定に基づき教員を相互に派遣しており、2011年度から2015年度の各春学期(4月から9月中旬)には南山大学の教員がサン・カルロス大学へ赴いています。サン・カルロス大学からは、ガウト先生が2015年度秋学期(9月中旬から3月)に続き今年度も来てくださいました。ガウト先生には、2017年度第4クォーターに、英語で授業を行う「国際科目群」でテーマ科目をご担当いただいています。



Special Events Schedule

2018.3.21

2017年度南山大学卒業式

開催日時: 2018年3月21日(水・祝)

第1部 午後1時より 第2部 午後3時15分より

場 所: 南山大学体育館

内 訳: 【第1部】外国語学部、法学部、理工学部、情報理工学部、短期大学部、国際地域文化研究科、法務研究科、理工学研究科、数理情報研究科
【第2部】人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、人間文化研究科、社会科学部研究科、ビジネス研究科、総合政策研究科

問合せ先: 総務課 (Phone: 052-832-3112)



News

卒業生がカトリック東京教区大司教に着座

カトリック教会は、地域ごとにそれぞれの「教区」に分かれており、日本には「東京教区」「名古屋教区」など16の教区があります。本学卒業生の菊地功司教が、日本で一番大きな教区である東京教区の大司教に任命され、2017年12月16日に着座式が行われることが決定しています。

菊地司教は、南山高等学校男子部、南山大学文学部神学科を卒業し、南山大学大学院文学研究科神学専攻博士前期課程を修了されました。1986年に南山教会で司祭に叙階され、西アフリカでの司牧活動、カトリック神言修道会日本管区長などを歴任された他、南山大学ならびに南山短期大学の非常勤講師も務められました。現在、カリタスジャパン責任司教も務めています。



卒業生が2017年世界形選手権大会で優勝

10月6日、7日にイタリア・サルディーニャ島で開催された2017年世界形選手権大会(IJF Judo Kata Grand Slam World Championships OLBIA (ITA))の「柔の形」(WC, Grand Slam Gr.1)で、本学人文学部人類文化学科卒業生の石田桃子さんと、同学科卒業生の石田真理子さん姉妹が日本代表選手として出場し、優勝しました。

石田さん姉妹は本学在学中から柔道形競技大会で優秀な成績を収められ、平成27年全日本柔道形競技大会「柔の形」で初優勝を成し遂げられています。2017年10月22日に開催された平成29年全日本柔道形競技大会でも「柔の形」優勝をされています。



Information

2018年度学生納付金改定について

2018年度南山大学学生納付金について、2017年3月24日開催の南山学園理事会は、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費を据え置くことを決定しました。

◎学部学生

情報理工学部、理工学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は現行の18,000円に、3年次生および4年次生は現行の9,000円に据え置く。

情報理工学部、理工学部については、授業料を

現行の818,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

◎大学院学生

数理情報研究科、理工学研究科、ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

数理情報研究科および理工学研究科について

は、授業料を現行の654,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

◎南山大学短期大学部

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

【2018年度学生納付金徴収(引落)日】

・春学期(第1・第2クォーター分)

2018年4月12日(木)

・秋学期(第3・第4クォーター分)

2018年9月28日(金)

各学期の公示、および学納金通知はがきにてご案内いたしますので、ご確認ください。

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会東京支部 様

サカイ工設株式会社 代表取締役 酒井英一 様

多田和夫様 横井達郎様 長屋愛子様
芦辺敏雄様 井分信二様 林雄介様
下野正代様 余語雅子様 後藤悟様
柳川淳様 袴田善弘様 不破克憲様
村上真由美様 佐藤賢治様 速水清次様
松田将大様 原田晴美様 石川理恵様

名古屋三越南山会 様

中部電力株式会社 様

秋山和久様 五島薫代様 有田恵子様
富田節子様 梶川正勝様 伊藤照満様
加藤洋子様 梶川礼子様 高橋澄様
清水孝雄様 広瀬真理子様 山田啓子様
水野浩次様 水野徳三様 神取治夫様
山田敏夫様 服部恵美子様 匿名ご希望者17名様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会 様 芦辺敏雄様 下野正代様 匿名ご希望者1名様

退職

2017年8月31日付

●宗教文化研究所/人文学部

助教 WHITE, David James

南山短期大学名誉教授堀部憲夫氏のご逝去

南山短期大学名誉教授の堀部憲夫氏(84歳)が、2017年10月18日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。



南山大学

発行 学長室 / 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp http://www.nanzan-u.ac.jp/